

# 黒毛和種去勢牛に対する飼料イネ乾草の給与技術

○宮島恒晴・大宅由里<sup>1)</sup>・陣内孝臣・山崎勝義  
(佐賀畜試・<sup>1)</sup>鹿島農林事務所)

## 【目的】

最近、新しい転作作物として飼料イネの栽培技術およびそのホールカップサイレージの給与技術が開発されている。

佐賀県でも中山間地域における水田機能を維持するための作物として飼料イネが期待されているが、佐賀県は肥育牛の飼養頭数が多く、乾草やわら利用が多いため、これらに適する乾草調整法および給与技術の確立が緊急の課題である。

そこで、今回は乾草利用の可能性について検討する。

## 【材料および方法】

供試牛は、黒毛和種去勢牛7頭を用い、うち3頭に飼料イネを肥育開始して3ヶ月間給与し、19ヶ月間飼養した(試験区)。また、4頭にチモシーを肥育開始して3ヶ月間給与し、20ヶ月間飼養した(対照区)。

飼料イネを給与した牛とチモシーを給与した牛は、異なる種雄牛であった。

給与した飼料イネは、「モーれつ」で出穂期にモアコンディショナーで刈り取り、3日間天日で乾燥した後、ロールをラッピングして貯蔵した。

## 【結果および考察】

飼料イネ乾草の推定TDN含量は原物中37.8%であり、日本標準飼料成分表のチモシー乾草の値より16%低かったものの、CPおよびCFはほぼ同程度であった。また、β-カロテン含量は原物中4.4mg/kgでチモシーよりもやや低かった(表1)。

表1 飼料イネ乾草の原物中の成分組成

粗飼料名	水分 (%)	CP (%)	CF (%)	TDN (%)	β-カロテン <sup>2)</sup> (mg/Kg)
飼料イネ	18.7	6.9	25.9	37.8	4.4
チモシー <sup>1)</sup>	14.1	8.7	28.9	53.8	7.1

1) チモシーは、日本標準飼料成分表の値を引用した。  
2) β-カロテン含量は実測値である。

飼料イネは、3ヶ月間の給与設計どおりに摂取され、最大摂取量は1日1頭当たり5.5kgであった(図1)。

血中ビタミンA濃度は、対照区よりやや低いものの、肥育開始して12ヶ月までは肥育牛の適正なパターンを示した(図2)。

枝肉成績は、枝肉重量では523.7kgが得られ、歩留は67%と優れた成績であった。また、ロース芯面積は60.7cm<sup>2</sup>、ばら厚が8.3cmと筋肉もよく発達していた(図3)。

以上のことから、飼料イネ乾草は肥育牛に給与するチモシー等の良質粗飼料と同様に十分利用できることが示唆された。

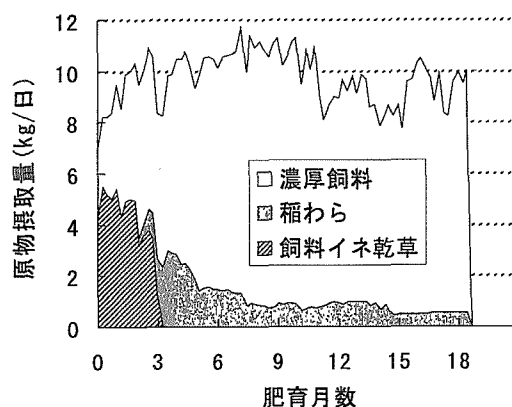
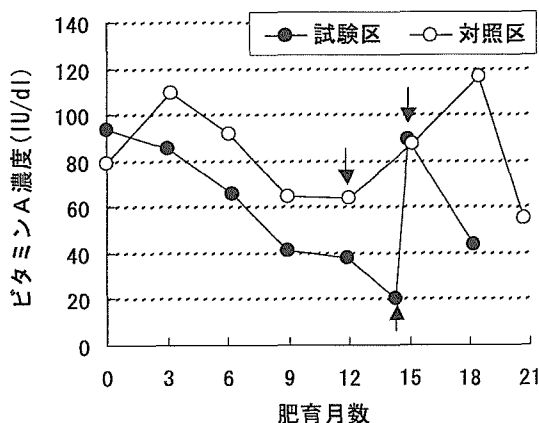


図1 飼料イネ乾草の摂取量



注) 図注の矢印は、ビタミン剤投与を示す。

図2 血中ビタミンA濃度の変化

表2 飼料イネを給与した牛の枝肉成績

枝肉重量(kg)	歩留(%)	BMS (No.)	ロース芯面積(cm <sup>2</sup> )	皮下脂肪厚(cm)	バラ厚(cm)
523.7	0.67	7.7	60.7	2.8	8.3